

令和 3 年 12 月 20 日

瀬戸内市議会議長

瀬戸内市議会議員 厚東 晃央

政務活動費研修報告書

政務活動費を使用して、次のとおり研修活動をしましたので、その結果を報告します。

期間	令和 3 年 12 月 19 日
研修会名	瀬戸内海 海ごみフォーラム in おかやま
開催場所	山陽新聞社さん太ホール（岡山市北区柳町 2-1-1）
研修内容	<p>1. 問題提起 基調講演 I 瀬戸内オーシャンズ X について ーオール瀬戸内で、世界モデルへー 講師 塩入 同 氏（公益財団法人日本財団）</p> <ul style="list-style-type: none">・瀬戸内での包括的海洋ごみ対策 目標：ごみの流入 70%減、回収 10%以上増 ①調査研究を行い、②企業と地域と連携する、③啓発・教育などで啓発行動、④政策形成につなげていく・海洋ごみを減らすために必要なこと 海洋ごみの 7-8 割は陸由来（水路や河川から海に流出） 人口が集中するエリアを網羅した、河川地域での発生源を調査→実態調査が不可欠・調査の結果（広島・愛媛・香川・岡山） ごみの発生源を把握するために 2020 年 12 月～2021 年 5 月まで実施（河川数 280 本） 河川の本流だけでなく支流や用水路も調査 車内ごみが捨てやすい箇所、コンビニ裏のポイ捨て箇所等 ごみのホットスポットがある



・岡山県の結果

全国平均 5 倍以上の平野部水路があり、また水門・網場でも多くのごみが溜まる

農地の都市化・農家の高齢化で、農業用水路・水門管理が手薄になる

→水路・水門・網場の清掃管理を支える地域の仕組みが求められる

・対策プラン

戦略的クリーンナップ活動

適所へのごみ箱設置

プラスチックのリサイクルの促進

啓発活動

基調講演Ⅱ

海ごみ問題解決にむけた社会変革

ーコロナ禍での地域環境活動と企業協働の可能性ー

講師 清野 聡子 氏 (九州大学大学院工学研究院)

・海ごみ堆積、異常事態が日常化

→高齢化が進む地域では放置につながっている

・マクロ・プラスチックが問題になっている

・太平洋など海洋の海流を知ることの必要

・海ごみ問題は陸での解決が重要

・ペットボトルのごみが増加

・地域による清掃の重要性

・まち、川、水路のごみ清掃の対策で海への流入が減少

・多様な主体、幅広い世代が問題意識を持つことが重要

・清掃活動への参加を増加させていくことが不可欠

・①地域住民が活動すると②行政が動く、③教育や研究で広く知ってもらい、④民間会社も動くようにし、社会を動かす

2. 各分野での事例と現状の共有

市民・企業・行政、それぞれの立場で、連携で、

海ごみをどう減らす!?

○株式会社セブン-イレブン・ジャパンの報告

・環境宣言し、ペットボトル回収機の導入など実施

○岡山市北区尾上町内会の報告

・川ごみの回収を長年行ってきた町内会の活動

○寄島漁業協同組合・高松市瀬戸内漁業協同組合の報告

・海の環境を守ろうと網にかかったごみを回収し、分別処理の活動

	<p>○広島県の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内海の新たに流出するプラスチックごみをゼロにすることを目指している活動 <p>○海ごみ問題に取り組む高校生の報告</p> <p>(山陽学園中学・高等部、岡山学芸館高等学校、創志学園高等学校、岡山県立水島工業高等学校、岡山県立笠岡高等学校)</p>
<p>所感</p>	<p>海ごみの問題は世界規模での問題になっている。調査研究、啓発活動、ごみ回収の実施などが少しずつ広がっている。調査により、海に流れ込んでいるごみの回収だけでなく、海に至るまでの場所でのごみ回収が必要となっていることも明らかになっている。また、高校生が学校でも取り組み、様々な世代でごみへの啓発が行動につながっている報告がされた。</p> <p>わが市でも海に接しているので、海岸での清掃は実施されている。しかし、用水路や支流などに捨てられているごみに関して、啓発活動、清掃作業にはつながっていない。クリーンアップ作戦も実施しているので、広く啓発し、清掃活動を行う必要があると感じた。これまで行っている施策と海ごみ問題のことを研究し、整理し、検討して、具体的施策につながるように提案するべきと感じた。</p>